

# みくに



桜満開!! ~豊島のお大師堂にて~

社会福祉法人 みくに園  
障害者支援施設 みくに成人寮  
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920  
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1  
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

## 「みんなで創る明日の福祉」

施設長　松田　卓也

今年も新しい春が訪れ、希望をもって新年度がスタートしました。

皆さんは春にどのようなイメージをお持ちでしょうか？私は学生の頃、入学式や卒業式、新学期のクラス替え等、ドキドキワクワクしながらも新鮮な気持ちで春を迎えたことが思い出されます。春は新しい出会いがあり、別れの季節でもあります。

新年度を迎えるにあたり、みくに園はこの度、高田安司施設長が退任し、私、松田卓也が施設長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。私は、みくに園で仕事をして10年が経ち、たくさんのこと学びました。特に自閉症療育の構造化の勉強に力を入れ、自閉症の方達の暮らしやすい生活に取り組んできました。私が今まで培ってきた経験や技術を活かして、障害を持った方々が豊かに暮らせる施設を築いていきたいと思います。

私の願いは、笑顔が絶えない施設をみんなで創ることです。職員の笑顔は利用者さんの笑顔に繋がり、利用者さんの笑顔は職員を励ます魔法です。一人ひとりの笑顔が周りに広がり、また自分に戻ってくる、そんな施設にしたいと思います。そして、明日の福祉のために力強く前進する施設にすることが私の目標です。

施設長が交代したことでの心配をおかけすることもあるかも知れませんが、できる限りの努力を重ね、利用者さんが安心して生活できる施設になるように精進していきます。保護者の皆様はじめ、地域の皆様方には日頃からご支援・ご協力を頂きまして、感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナへの攻撃や新型コロナウィルスの感染など心を痛めるニュースが続いております。美しい満開の桜のように、一日でも早く世界中に春が訪れる事を願っています。

## 豆まき

節分の日、1番館のみんなでオリジナル豆まきを行いました。オリジナル豆まきとは、鬼に見立てたダンボールに豆（ボール）を入れ、見事に鬼を追い払う事が出来たらお菓子を美味しくいただくというものです。利用者の皆さん豆投げに失敗しても諦めずに何度もチャレンジしました。そして、離れた鬼を一発で追い払う“強者”が現れた時は自然と拍手が起きました。「鬼は—外！！福は—内！！」と元気な声が響き、会場は大いに盛り上がりました。

季節の変わり目には鬼（病気や災い）が生じると言われています。この鬼に豆をぶつけて無病息災を願う儀式は、鬼の目に魔目（豆）をぶつけて滅する「魔滅（まめつ）」に通じ、室町時代から受け継がれています。長い歴史を刻んでいるのはそれだけの理由があるからでしょうか。日本の伝統行事に触れながら一日も早く世界中に猛威をふるう新型コロナウイルスが滅される日を願いました。（宮本 記）



## ひな祭り

今年のひな祭りはひな人形と一緒に甘酒とお菓子を楽しもうと移動式にしました。ところが利用者の皆さんひな人形には目もくれず、かわいいいちごのケーキに夢中でした。

（柴田 記）



## お花見

今年は例年より早く桜の開花が始まりました。みくに園でもいつもより早くお花見を行いました。巻き寿司や天ぷらが入った花見弁当にスイーツ。そして、豊島にあるお大師堂への桜見物。薄ピンクの満開の桜と青空に春の訪れを感じました。

（柴田 記）



## 避難訓練

1番館、3番館で火災による避難訓練を実施しました。職員は火災発生時の対応や消防署への通報、利用者全員の避難が完了するまでの手順を再確認しながら、避難誘導を行いました。当日は、訓練だけでなく、建物内の点検や避難経路が確保できているか等を点検しました。こうした日頃の訓練や点検が災害の発生時に利用

者の命を守ることに繋がります。後日津波や地震による避難訓練も行い非常事態に備えていきます。

（高橋 記）



## 健康診断

3月24、25日の2日間に分けて済生丸での利用者の健康診断を実施しました。済生丸は「海をわたる病院」として瀬戸内海を巡回診療している船です。船内は心電図や胸部レントゲン等の設備があり、エレベーターも設置されています。毎年同じ船での健診のため、利用者も安心して受診することができます。健診を受けることで早期発見、早期治療に繋げていきたいと思います。（高橋 記）



## 構造化の取り組み

1番館 小澤拓也

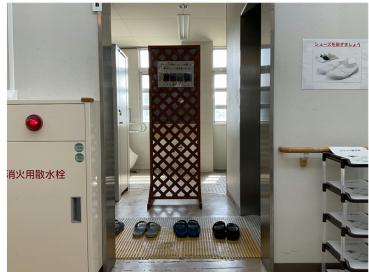
一年前の桜咲く頃、1番館の利用者さんや職員がガラリと変わりました。慣れぬ環境を皆一丸となって整え、徐々に居心地が良くなってきたある夏の終わりの日、その束の間の平穀を打ち破るかのように、1番館主任は力強く宣言しました。

「トイレ・食堂・浴室の構造化を見直して、より快適な1番館を目指しましょう！」

構造化とは、端的に言えば『いくつかの材料を組み合わせて、全体の矛盾や対立を調整する』ことで、上手な構造化によって、特に自閉傾向のある人が過ごしやすい環境を整えることができます。期限は二ヶ月。この日から、我々1番館職員は3チームに分かれ、それぞれの持ち場をどのようにしていくか、頭をひねり暇を見ては手を動かし続けました。

### 【具体的な取り組み】

トイレ班は、走ってトイレ出入りする利用者さんが散見され、出入りの際に利用者同士が衝突する可能性があることに着目しました。そこで、あえて入り口に衝立を置き、滑り止めのマットを敷いた上でスリッパを並べ、履き替えてもらうことにしました。一連の動作のスピードを緩めて、事故を防ぐのが狙いです。



<トイレ入口>

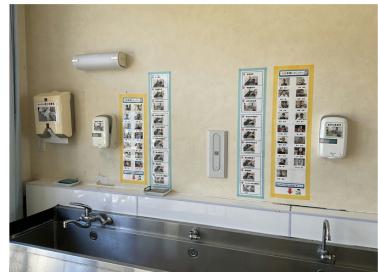
食堂班は、手洗い場に並ぶ列の乱れを正し、快適に順番を待つもらえるようにと、足跡シールを用意しました。また、石鹼による手洗いとアルコール消毒のどちらかしか行わない利用者さんが多いことから、2つの場所を引き離し、手洗い時に石鹼を使用した後、必ず通る道筋の終点にアルコールを配置することで、2つの動作を忘れずに行つてもらえるような動線を新たに生み出しました。



<食堂順列>



<並ぶための足跡シール>



<食堂手洗い場>



<入浴準備>



<風呂かご棚>

浴室班は、4つのシャワー付近に利用者さんの顔写真を貼り、どのシャワーを使えばよいのかをはっきりさせることで、入浴時の混乱を解消しました。そして、2番館で行われていた利用者さんによる風呂カゴ準備を復活させるべく、カゴと棚を色分けしたり、番号を表示して、作業の手順をわかりやすくしました。再び活躍の場を得た利用者さんが、得意気に慣れた手つきでカゴを配置していく姿を見て、職員も喜び、達成感を得ることができました。



<浴室・脱衣所動線>



<風呂場顔写真>



<風呂場の靴置き場>

上記以外にも多くの改良を試みましたがその全てが上手くいったわけではありません。例えばトイレ班は、衛生面の向上にも着手したものの、成功したとは言い難いのが現状です。食堂や浴室にも改善の余地は多く、期限をとうに過ぎた今も試行錯誤を繰り返しています。そう、構造化とは「The Long And Winding Road（長く曲がりくねった道）」。みくに園で耳を澄ませば、ポール・マッカートニーの優しい歌声が聞こえてくるような気がします。

このようにして、様々な個性を持つ利用者が生活するみくに園で、我々職員は快適さの最大公約数を見つけるべく、日々奮闘しています。それは雲のかかった山を登るような、なかなか正解の見えない道筋ですが、それでも頂を目指して、今日も頭をひねり手を動かし続けているのです。

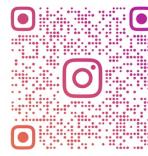
## 新型コロナワクチン追加接種について

1月31日と2月7日の2日間に分けて、みくに園内で新型コロナワクチンの追加一斉接種（3回目）を実施しました。香川県内でのオミクロン株の感染急拡大を受けて、日程が当初の予定よりも大幅に繰り上げられました。副反応に対する医療的な体制も整えられ、安心して接種することができました。おかげ様で、みくに園ではこの感染禍にもかかわらず、大きな安心感の中で生活できています。多くの方のご尽力に心から感謝いたします。今後においてもできる限りの感染対策に努めます。皆様のご健康と1日も早い新型コロナウイルス感染症の収束を心からお祈りいたします。 (伊藤 記)

この度、日本生命労働組合高松支部一同様より、ベッドサイドテーブル、やさしい献立煮込みハンバーグやシチューを助成して頂きました。利用者さんのために大切に使わせて頂きます。ありがとうございました。



### 合同ネットワーク



しまふくし

しまふくし  
インスタグラムQRコード

SHIMAFUKUSHI

- \* 令和3年度で高田安司施設長が退任されました。永きに渡りみくに園を導いてくださいったことに心より感謝の意を表します。新しい松田卓也施設長の下、職員一同、高田施設長の意志を受け継ぎ、利用者のしあわせのため尽力いたします。
- \* 1番館副主任に佐藤栄晃が就任しました。
- \* 3番館主任柴田裕紀子が4月中旬より産前産後休暇・育児休暇に入ります。柴田が休みの間は、副主任の古川由実が代理を務めます。

### 編集後記

今年もみくに園芝桜公園の芝桜が咲きました。小さなピンク色のかわいい花です。このみくに便り春号を作成するにあたり、5年前の故高田久理事長の「シバザクラと私」という巻頭文に目が留まりました。その中で故理事長は芝桜の「忍耐」という花言葉に触れられています。花言葉の語源は、「一つの花は極小で弱々しくても、群れで咲くことで逆境に耐えている姿」にあるそうです。まさしく、長く続くコロナ禍においての私たちへの励ましの言葉だと感じました。この困難をみんなで乗り越えてみせる！職員一同、力を合わせて頑張っていきます。今年度もよろしくお願ひいたします。

\*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920